

内 科

副院長 北 和彦 診療局長 齋藤 博文

統括部長 行木 瑞雄

1. 平成 30 年度の目標

総合内科診療の開始：地域医療への貢献と初期研修の充実

専門診療の継続：消化器、循環器、糖尿病内分泌の専門診療の提供

2. 診療体制

外来診療は内科新患、消化器、循環器は月から金の週 5 日、糖尿病は火水木金の週 4 日、内分泌は火曜、神経内科は水曜、呼吸器内科は月木の週 2 日、外来診療を行った。神経内科と呼吸器内科は千葉大から非常勤医を派遣して頂いた。

入院診療と日当直は常勤スタッフ 16 名で分担した。日当直では千葉市夜間内科系救急 2 次当直を月 4 回程度、ならびに休日 2 次日直を月 1 回担当した。

3. スタッフ

副院長	北 和彦	(消化器)
診療局長	齋藤 博文	(消化器)
内科統括部長	行木 瑞雄	(循環器)
消化器内科統括部長	野本 裕正	(消化器)
循環器内科統括部長	宮原 啓史	(循環器)
部長	長谷川 敦史	(循環器)
部長	太和田 勝之	(消化器)
部長	間山 貴文	(内分泌)
主任医長	川名 秀俊	(糖尿病)
医長	薄井 正俊	(消化器)
医長	堀江 佐和子	(循環器)
医長	渡邊 周之	(糖尿病)
医長	高城 秀幸	(消化器)
医師	田澤 真一	(消化器)
医師	北川 真理	(循環器)
医師	大野 力	(消化器)

平成 30 年 4 月より川名医師と高城医師が加わり常勤医 16 名となった。

4. 診療実績

年間の新規入院数は内科全体で 2233 名（月平均 186.1 名）であった。部門別では総合内

科 448 名（同 37.3 名）、消化器内科 1251 名（同 104.3 名）、循環器内科 534 名（同 44.5 名）であった。救急患者搬送件数は内科全体で 1364 件（月平均 113.7 件）であった。

① 内視鏡統計

		平成 30 年度	平成 29 年度
上部消化管内視鏡		1595	1705
	ポリペク/EMR	8	14
	ESD	40	34
	EVL/EIS	12	9
	止血術	31	48
	PEG	10	12
下部消化管内視鏡		1609	1395
	ポリペク/EMR	645	455
	ESD	34	7
胆膵内視鏡			
	ERCP	336	303
	(EST)	78	80
	EUS	104	78
	(FNA 関連)	7	5
気管支鏡		0	0
合計		4424	4145

② カテーテル統計

		平成 30 年度	平成 29 年度
心臓			
	CAG	283	296
	PCI	110	105
末梢血管			
	PTA	4	7
	IVC フィルター	4	2
腹部			
	TACE	12	15

③ 手術統計

		平成 30 年度	平成 29 年度
ペースメーカー手術			

	新規植込み術	21	31
	交換術	19	14
植え込み型心電モニタ		1	0

5. 平成 30 年度の総括

平成 30 年度より総合内科の入院診療を開始した。斎藤、間山、川名、薄井、堀江、渡邊医師 6 名が指導医となり初期研修医とともに内科外来や救急、当直からの入院診療を担当した。平日は毎朝診療開始前にミーティングを行い、毎週木曜に研修医のカンファレンスを行って研修医の指導を行った。糖尿病代謝内分泌内科は間山、渡邊に川名医師が加わり 3 名となった。水曜の糖尿病外来と木曜の妊娠糖尿病外来は千葉大から非常勤医により継続して頂いた。神経内科は昨年同様水曜に千葉大から非常勤医を派遣して頂き外来診療を継続した。呼吸器内科は月曜と木曜に千葉大から非常勤医を派遣して頂き、外来診療を再開することが出来た。

消化器内科は、消化器内科医での朝回診および週 2 回の早朝カンファレンスを行ない患者の検査や治療方針などを話し合った。スタッフは高城医師が加わり 1 名増、計 8 名となった。肝臓領域では C 型肝炎に対する DAAs（直接作用型抗ウイルス薬）や B 型肝炎に対する核酸アナログを積極的に行うとともに、肝細胞癌に対する経皮的ラジオ波焼灼療法や肝動脈化学塞栓療法も引き続き同様に行ったが、一時期と比べ症例は減少傾向である。消化管領域では、とくに下部消化管検査件数は増えた。上部・下部の ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）は高城医師の加入により年間 70 例以上、大腸ポリープに対する内視鏡治療は年間 600 例以上と症例数が増加している。また、胆膵領域でも ERCP 関連手技、EUS（超音波内視鏡）関連手技のいずれも斎藤医師、太和田医師を中心に対象症例数を増やしている。

循環器内科は前年度と同様、行木、宮原、長谷川、堀江、北川の 5 名で診療を行った。平日は毎朝病棟回診を行い、週 2 回早朝に心カテの読影カンファレンスを行った。PCI は昨年と同様に年間 100 例以上、PTA とペースメーカー手術もおおむね昨年と同様の実績であった。専門外来として水曜に千葉大の非常勤医に不整脈外来を継続して頂き、火曜に聖路加国際病院の丹羽公一郎先生にお越し頂き先天性心疾患外来が開設された。

6. 今後の目標

引き続き総合内科診療と専門診療の強化に努め、地域医療に貢献できるよう進めたいと思います。